

第2期第10回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2015年1月24日（土）10:00～12:00

〔場 所〕町田市生涯学習センター 6階視聴覚室

〔出席者〕※敬称略

委 員：石川清（会長）、小川久江（副会長）、岩本陽児、太田美帆、押村宙枝、佐合昭浩、辰巳厚子、富川尚子、西原要四郎、布沢保孝、二見秀太郎、柳沼恵一、吉川雅子
以上 13名

事務局：稲田センター長、外川担当課長、松田事業係長、
村田担当係長、齋藤担当係長、小林主任、中村主事（記録）

〔欠席者〕菅谷万里子、花田英樹

〔傍聴人〕2人

〔資 料〕・第10回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 資料1～資料9
- ・2014年度生涯学習センター運営協議会 事前提出意見
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 報告1～報告3
- ・2015年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート（案）

<次年度の事業評価シートについて>

事務局：2015年度4月以降の事業評価シートのたたき台を資料でお配りした。大きな変更点として、シート左側に企画、右側に事業実施後の評価についての項目をまとめた。まずはシート左側の企画書について、「生涯学習推進計画における位置づけ」という項目を追加した。これまでは「目的」、「事業内容」としていたが、記載内容が重複することもあり、事業の取組に該当する目的を推進計画の中から抜き出し、記載することとした。中段の「事業内容」については、これまでどおり詳細な内容について、「期待できる効果」、「評価指標」については、個別の事業についての目標となっている。「前年・前回の運営協議会意見・評価等」で前回どのような意見が出されたかわかるようにし、「前年・前回との違い・改善点」で、出された意見をどのように反映し、改善したかという流れが見えるようにした。「企画提出時運営協議会意見」は、企画書を提出した時点では空欄とし、評価時にシートを提出する際、企画提出時に出された意見を載せることとした。

続いて右側の評価書について、これまでシート左側にあった実施結果についての項目を右側に移動した。評価項目について、基本的に必要性があるから事業を実施するため、事業の必要性についての項目は削除した。また、それぞれの項目にあったコメント欄、担当者所見欄を「成果・課題」にまとめることとした。これまでどおり運営協議会でご意見をいただき、最後にセンター長総合評価をし、1つのサイクルとしたい。あくまで案としてお示ししたので、いろいろご意見をいただき、4月以降に運用を開始したい。

（意見・質問）

委 員：大変見やすくなったと思うが、前年の運営協議会意見を載せ、更に企画提出時の運営協議会意見を載せるというのは、時間的・内容的にみて重複しているのではないか。企画書を提出し、運営協議会が出された意見を反映するのであれば、かなり前に企画書を提出する必要がある。前年の運営協議会意見を載せるのであれば、企画時の意見は必要ないのではないか。作業時間を考えると難しいと思われる。また、個別の事業評価も勿論大事だが、運営協議会の最も大事

な役割は、推進計画に基づき、1年間でどのような講座が行われたかを事務局が提示し、運営協議会の中で評価を行うことであると考え。そのため、評価シートについては我々があまり深入りしすぎるべきではないのではないか。

委員：企画提出時意見をシート上に記載することについて、前年に改善点等を検討している場合は必要ないと思うが、新規事業については必要な場合もあると考え。しかし、企画書はかなり前に出さなければいけないこと等を考えると、現実的に難しいのではないかと。

委員：確かに新規事業の場合は企画時に出された意見を残すことも必要だと考えられるので、前年の運営協議会意見と企画提出時運営協議会意見を1つの欄にまとめ、新規事業か継続事業かによって記入事項を選択できるようにすればよいのではないかと。

委員：作業量を考えて、時間的に厳しいのであればシートからは削除した方が良いが、そこまで手間がかからないのであれば企画時の意見も残したほうが全体の流れが見え、わかりやすい。

事務局：当日までに委員の皆さんからいただいている意見を抜粋するだけなら大した手間はかからないが、議論の場を設けるのであれば当然時間はかかる。いただいた意見を基に事業実施までの間に改善できるものがあれば改善していくことは可能である。

事務局：「企画提出時運営協議会意見」欄を設けたのは、この評価シートを基に、事業を実施する職員がPDCAサイクルをまわしていくためである。事業実施の際の工夫等を意見としてシート上に記載していれば、当年度は難しくとも次年度に活かすことができる。会議の中で協議されたことがどの程度反映されているかも見え、担当職員への周知にもなる。

会長：事業評価シートは事業を行っていく上での情報シートになるため、万遍なく情報を残しておきたい。内部の情報シートなのか、外部に発信していくための材料としてのシートなのか、捉え次第で項目の内容は変わってくる。

委員：企画時に出した意見を残すことは決して無駄にはならないと思うが、担当者の苦労が増えるのであれば、ここまで詳細に項目を分けなくても良いのではないかと。

委員：評価シートとは話が少し離れるが、全体像を考えると、推進計画の全体図の中に、個々の事業がどの取組に該当するのか、事業番号をシールで貼っていけば、年間でどの取組が充実したかが見えてくる。

委員：「企画提出時運営協議会意見」、「前年・前回の運営協議会意見」、「前年・前回との違い・改善点」の3項目は内容が重複していると感じる。実施後の運営協議会の評価を受け、改善をしていくのであれば、前年の運営協議会意見と前年との改善点は、欄をまとめてもよいのではないかと。「企画提出時運営協議会意見」については、新規事業の場合は必要だが、前年も実施している場合は割愛しても良いと考える。ただし、事務局として必要な項目であれば残していただいて構わない。

委員：3つの項目を1つの欄にまとめ、必要に応じて記載内容を変えれば良いのではないかと。

事務局：3つの項目は立場も時点も違う。「前年・前回の運営協議会評価・意見等」は、前年の運営協議会意見、「前年・前回との違い・改善点」は、企画時点担当者の前年からの改善点、「企画提出時運営協議会意見」は、企画提出時点の運営協議会意見となっている。1つの欄にまとめるとうわりなくなる。

委員：何が大切なのかをしっかりと抑えておけば、自ずと内容も決まってくる。

委員：今回提示していただいた評価シートでは、新規事業は前年実施した事業に関する欄が空欄になってしまったため、欄を残すにしても工夫する必要がある。新規事業の場合は実施上の留意点を記載しても良いのではないかと。

事務局：「前年・前回との改善点」の欄は、次年度事業を実施するうえでも残しておきたい。前回意見と企画提出時意見については、運営協議会の意見としてまとめても良いと考える。運営協議会意見に対してどう反映されているかを可視化している。

委員：事業の流れがきちんと見えるので、基本的にはこのシートのままで良いと考える。ただ、新規事業の場合は空欄をなくすためにどうするか、工夫は必要である。

会長：そもそも事業評価シートの改善にあたって、企画書と評価書を分けることと、これまでの運営協議会での議論が見えるようにしたいということがあったので、この欄は残すべきであると考え。

- 委員：前年との違いは項目として設けるべきだと思うが、運営協議会意見は1つにまとめても良いと考える。もう少し枠を緩やかにし、前年がない場合は企画時に出された意見のみ記載すれば、空欄もなくなる。
- 事務局：見せ方の問題なので、運営協議会意見がどの程度反映されたかが見えるようになっていれば1つの欄にまとめても問題はない。
- 委員：「前年・前回または企画提出時運営協議会意見」という欄にすれば事業によって書き分けができるのではないかと。また、「周知方法」欄について、これまでどおり広報の掲載日は載せていただきたい。
- 会長：次回改めてシートのたたき台を提示していただく。

<協議事項>

1、2014年度生涯学習センター事業の企画について

(1) ココロも磨くファッション術

事務局：若者向け事業として「町田コレクション」というファッションイベントを近隣大学等の協力を得ながら毎年行ってきたが、普段生涯学習センターを利用することのない多くの方に来ていただけるにも関わらず、単発事業で終わってしまっていた。ファッションショーを目当てに来る方も視野に入れ、ファッションというキーワードをそのまま残し、若者が継続的に学べる場をつくるため、企画した。現代の若者は自己肯定感が低いといわれているため、ファッションを通して自分に自信を持ち、自己肯定感の高まりをもたらすような講義を行う。

(意見・質問)

- 委員：この講座はまちコレの参加者に対するアプローチなのか。
- 事務局：広報等でもPRはするが、普段生涯学習センターを利用されない方を対象としているため、まちコレのイベント内で周知を図った。まちコレ参加者も当然1つのターゲットとなるが、それだけに限定せず若者に広く参加していただくため、109MACHIDAの協力も得ながらPRしていく。
- 委員：講座の参加を呼びかけるだけでなく、自主的に企画に発展するような仕組みづくりが必要と考える。
- 事務局：生涯学習推進計画の重点課題の中にも若者が主体的に関わっていく場を増やすことを掲げているため、ゆくゆくは企画段階から若者が関わっていけるよう進めていきたい。2014年度は時間の問題もあり、まずは若者向けの講座をいくつか実施していくことを考えている。また、講座タイトルについては若者がとっつきやすいよう、あえて「ココロ」をカタカナにした。
- 委員：町田デザイン専門学校の講師を招くということだが、講座のポスターを専門学校の学生にデザインしていただければ良いのではないかと。
- 事務局：まちコレでは学生にポスターのデザインをしていただいたが、今回は学校側で2月に大きなイベントがあるということで、スケジュールの問題もあり、今回は難しいと考えているが、若者がどのように関わっていけるか今後検討したい。
- 委員：若者向け講座に限らず、他の講座のポスターについてもデザインを依頼すれば、他世代がどのようなことに興味関心を持っているか知ることができ、ポスターをデザインしたことで講座自体に関心を持ってもらえるかもしれない。生涯学習センターの周知にも繋がるので、講座に参加してもらおう以外でも若者が関わっていく手段はある。
- 委員：若者向けの講座は、やはり若者に企画してもらうべきである。事業のプロセスは監視しつつも、企画・運営は全て若者に任せ、生涯学習センターは場所を貸す程度でも良いのではないかと。
- 委員：10代・20代が対象となっているが、もう少し年代を下げてもキッズショーをしてはどうか。年代にもバラエティを取り入れてほしい。
- 事務局：若者向け事業は若者が企画するというのも1つの持ち味だと思うが、学生が他校の学生や企業、行政と付き合う場を作ることも生涯学習センターの役割の1つと考えている。また、生涯学習センターの利用者について、貸出を行っている部屋の中は高齢者が多いが、部屋の外には実は若者が多い。一步引いてみると様々な世代が利用しているが、世代で分断されているので、そこをいかに混ぜていけるかが今後の課題と感じている。数年前と比べ若者の利用者が増え、環

境が変わったことでどのように対応していくかを検討する必要がある。

(2) 生涯学習ボランティアバンクスキルアップ講座

事務局：生涯学習ボランティアバンクの登録者を対象としたスキルアップ講座で、2013年度に続き、2回目の実施となる。登録者には、利用申請した団体の依頼を受けて活動していただいたり、生涯学習センター主催の体験講座で講師をしていただいているが、その中で見えてきた課題として、自身の知識や経験をどのように人に伝えていくかを改めて意識していただくため、企画した。相手が何を望んでいるかを理解し、自身の知識や経験をどう活かしていくか、グループワークを行いながら、他者の目を意識していただくことを考えている。また、生涯学習ボランティアバンクを通じて、登録者に望んでいることを改めて伝えながら、共通認識を持って運用していきたい。

(意見・質問)

委員：ボランティアバンク制度には様々な課題がある。登録更新の時期に差し掛かったこともあり、人材育成の方法等については再検討する必要がある。

会長：今回は登録者のみを対象としたのはそのためか。

事務局：ボランティアバンクの趣旨を登録者へ伝えたいという思いがあったので、今回は登録者のみを対象とした。また、このボランティアバンク制度は2年に1度、登録の更新をすることとしており、今回ははじめての更新時期となる。登録者が減少するかどうかは実際行ってみないとわからないが、依頼件数が少なく、登録いただいたものの1度も依頼がない方もいらっしゃるのので、そういった方は更新が難しい面もあるのではないかと感じている。

委員：2014年度の依頼件数はどのくらいあったのか。

事務局：依頼自体は24件あり、2013年度依頼件数の14件を上回ったものの、登録者と依頼者の調整がうまくいかず、実現できなかったものが6件あった。登録から2年が経過し、登録者の生活環境が変化したことも考えられるので、それらも含め、改めて情報を整理していく。

委員：ボランティア文化を育てるには、まずは人材育成が不可欠である。全員が全員成功するとは限らないが、ボランティアをされる方が自身の持っている知識や経験を人と分け合うことが楽しいと感じることが大切である。はじめはうまくいなくても回数を重ねていくうちに、ボランティアの方も成長していく。教えられる側だけでなく、教える側も育つので、その喜びを少しでも感じてもらいたい。ボランティアを育て、活動を広げていくには時間も手間もかかると思うが、ボランティアバンク制度は今後も是非継続していただきたい。

委員：ボランティアバンクを何度か利用させていただいたが、初回のみ無償で、2回目以降は有償にしたいというお話を受けたことがあった。また、本業のある方で、多忙のためなかなか日程を調整できないケースもあったので、この2点については今後の課題と感じている。

事務局：ボランティアバンク制度では、原則として謝礼は受け取らないこととしており、事前に申請があった場合のみ交通費等の実費分を受け取ることを認めている。プロとして仕事をされている方が登録されているケースも当然あるが、その場合は登録の際に、ボランティアでできる範囲を明確にさせていただき、その範囲を超えた要望が依頼者側からあった場合に限り、双方同意の上、有償で行っていただいても構わないことを説明している。

委員：ボランティアの範囲を決めることについて、サイン等の書面上の取り交わしはあるのか。

事務局：登録申請書に必要事項を記入していただくのみで、承認のサイン等は特にいただいていない。

委員：登録者数に対し、2年間一度も依頼がなかった方の割合はどれくらいか。

事務局：1人につき複数分野を登録している場合もあるので件数=人数ではないが、現在91件の登録に対し、これまで37件の依頼があった。ただし、複数の依頼があった登録者もいらっしゃるのので、実際には3分の2以上の方が1度も依頼を受けていないと考えられる。そのため、1日体験講座を行う際はそういった方を中心にお声かけをさせていただいているが、広く依頼が来ている状態にはなっていないのが現状である。

委員：市内に複数のボランティアセンターがあるが、登録者や分野が重複する部分があるにも関わらず、窓口がバラバラで利用者にとってあまり親切ではない。各施設でボランティア登録の条件に差異があり、なかなか難しいとは思いますが、窓口を横断的につなぐことも検討していただきたい。

い。

(3) ～気象予報士 寺川奈津美さんと考える～ 環境講演会「異常気象と地球温暖化」

事務局：環境・自然共生課との共催で実施する。この企画は節電や省エネを啓発するライトダウンキャンペーンの一環で、気象予報士を講師に招き、集中豪雨や大雪などの異常気象や、それらを引き起こす地球温暖化について学ぶ。

(意見・質問)

委員：環境講演会とのことだが、異常気象による災害対策に関する内容には触れないのか。

事務局：東日本大震災を受け、節電の取組のひとつであるライトダウンキャンペーンを普及することと、地球温暖化による異常気象が及ぼす影響について理解を深めるという目的があり、環境問題と災害対策、どちらの意味も含んでいる。

(4) 健康講座「ロコモ体操～百まで歩ける足腰づくり～」

事務局：10月、11月に実施した市民企画講座の内容を再構築し、実施するもので、前回は先着順で定員30名としていたが、大幅に応募があったことを踏まえ、今回は定員40名で、応募者多数の場合は抽選とする。部屋のスペースや安全性の問題を考慮し、講師との調整の結果、前回より10名増やし、40名の定員とした。

(意見・質問)

委員：前回同様応募が殺到することが考えられるが、ホールで行うのであればもう少し定員を増やせるのではないか。

事務局：講師の補助者の人数を考えると、40名程度が限界ではないかと考えているが、今回実施して更に余裕があれば今後定員を増やすことも検討したい。

委員：スペースの問題については、学校の体育館を借りてはどうか。健康に関する講座は今後更に高齢者ニーズが高まっていくと考えられるので、継続的に実施していただきたい。

委員：これほど人気の高い講座であれば、生涯学習センターだけでなく、各地域センターでも行ってはどうか。

委員：場所の拡大だけでなく、回数を増やす等工夫を行いながら今後も実施していただきたい。

委員：例えば、ロコモ体操指導士の資格取得に関する講座を生涯学習センターで行い、そこで資格を取得した方達が地域センターでロコモ体操講座を行うという方法もあるのではないか。人材を育てることも生涯学習センターの役割のひとつと考える。

事務局：学習者の中から指導者を発掘し、学んだことを各地区に広めていただくことも大切である。また、他施設・他課との協働という点について、介護予防の一環で高齢者福祉課から依頼を受け、いくつか事業の紹介をする予定である。

2、事業評価について

(1) 町田コレクション 2014

事務局：今回が6回目の実施で、目標来場者数600名のところ、実際の来場者は250名であった。企画当初は参加を希望していた大学サークル等がいくつかあったものの、日程の調整がつかず、例年に比べ参加団体が少なかったことがプログラムの縮小、来場者数の減少に繋がってしまったと感じている。今回はファッションショーをメインに行ったこともあり、ショーの参加者は前回と比べ増加した。また、普段生涯学習センターを利用されない来場者に対し、継続的な利用に繋げるために今後行う若者向け講座や、他課で行っている若い女性向けの啓発事業のPRを行い、1つのきっかけとなるイベントになったと感じている。今後は主体となる学生に対し、コンセプトをきちんと伝えると同時に、職員や様々な立場の人が関わり、どのように学びの場を作っていくかが課題と感じている。

(意見・質問)

委員：109MACHIDAとの共催事業とのことだが、どのように業務分担されているのか。

事務局：基本的には、109MACHIDAにはPRの協力をメインに依頼している。また、今回は行わなかったが、2013年度は衣装提供、ファッションコンテスト優勝者への商品券の提供を

していただいた。

委員：今回参加団体が少なかったとのことだが、どれくらいの団体が参加したのか。

事務局：今回は町田デザイン専門学校のみであった。2013年度は桜美林大学山口ゼミ、2012年度は相模女子大学にも参加いただいております、今回も当初は参加予定だったが、他のイベントと日程が近いということで不参加となった。

委員：2013年度の参加者は570名だったのに対し、今回は半分以下になってしまったということでイベントとしては失敗だと考える。ただ、イベントの趣旨は大変良く、敗因から学ぶことも大きいので、これを糧に工夫を重ねながら、今後も継続していただきたい。原因としてはどのようなことが考えられるか。

事務局：2013年度に参加いただいた桜美林大学は、イベントのPR面で非常に長けていたため大勢の集客が得られたが、今回はそれが欠けたことが最も大きな原因だと考えられる。

会長：生涯学習センターから、周知活動は行ったのか。

副会長：ビルの外やエレベーター内にポスターが掲示されているのを見たが、非常に目についた。これを若者が見て、生涯学習センターがこのようなイベントも行っていることをPRするには良い機会になったと感じている。

委員：イベント自体には参加しない大学やサークルでも、情報発信のみしてもらおうという方法もあるのではないか。

委員：当日参加したが、出演者がステージから会場を迂回する際、階段でドレスを踏んでしまい、危険な場面がしばしばあった。緩いスロープや高い通路をつくる等、改善する必要がある。

委員：イベントの情報はタウン誌やショッパーへは掲載しなかったのか。

事務局：タウン誌、ショッパーへは掲載を依頼した。夏に行った浴衣講座についても掲載しており、今後も活用していきたいと考えている。

事務局：集客があまり得られなかった原因として、イベントの内容に体験できるようなものがなかったことも考えられる。また、ファッションショーだけでは人を集められないので、プラスアルファで工夫が必要である。ただ、ファッションショーの質については年々素晴らしいものになってきていると感じている。

委員：女性の参加者が多いとのことだったが、男性にも参加していただけるように、ステージイベントの見せ方を工夫する必要がある。

(2) 幼児の保護者のための講座「Rebornママ『これで完璧♪ハートフル子育て』」

事務局：全6回が終了し、受講率93%と非常に高い出席率で終えることができた。4班に分けて活動し、各班では交流も図ることができ、仲間作り等に繋がったものの、班を超えての交流がなかなか図れなかったことが今後の課題と感じた。満足度も非常に高く、今後の活動にも繋がっていくのではないかと考えている。

(3) 小学生の保護者のための講座「子どもの健やかな成長のために」

事務局：幼児講座の受講率が高かったのに対し、小学生講座は54%と非常に低い結果になってしまった。企画段階でいただいたご意見のなかで、小学生といっても1年生から6年生と幅広いので、もう少し対象を絞ったほうがよいというお話をいただいたが、実際講座を行ってみて、そのとおりであったと感じた。6回全て参加できた方が殆どいらっしゃらなかったため、回数についても検討する必要がある。アンケートで「特に印象に残ったものは何か」という質問に対し、殆どの方が「携帯電話、インターネットに関する問題」と回答しており、非常に関心の高いテーマだったと感じている。

((2)、(3)についての意見・質問)

委員：(3)について、受講率が非常に低いということだったが、非常に人気の高い町田第一小学校の校長先生を講師に招いたにもかかわらず、同校のコーディネーターや学校支援センターもこの講座を知らなかった。P連や校長会で宣伝することもできたのではないか。

会長：受講された方のお子さんの学年は聞いたのか。

事務局：受付時に伺った。

- 会長：低学年と高学年で講座を分割した方が良いと感じたとのことだが、どのような点で感じたのか。
- 事務局：小学生高学年と中学生は、同様のテーマで良いと思うが、低学年と高学年では共通するテーマを取り上げるのは難しいため、工夫する必要があると感じた。
- 委員：(2)について、情報提供の適切性の評価がBになっており、「幼稚園へのチラシ配布に偏りがあつた」とあるが、チラシ配布の偏りをなくせば解決するということか。
- 事務局：幼児講座を実施して3年目になるが、なかなか定員に達しないことが多く、今回は急遽近隣の幼稚園にチラシの配布を依頼した。予め全体に周知活動を行えば問題ないと考えている。
- 委員：(2)について、班を超えて交流を図るために、具体的にどのようなことをお考えか。
- 事務局：講座の修了生が改めて集まる場を確保、班分けはせず全員で1つのテーマを決め、学習できるような場ができればと考えている。
- 委員：担当者所見の改善点で、「アンケートを事前配布したため、最終回の声がアンケートに反映しづらい」とあるのは、最終回にアンケートを配布した方が良かったという意味か。
- 事務局：最終回を自由にまとめ作業をしていただく時間にしたため、時間配分を調整し、最後の振り返りができるような時間を組みなおせば、最終回の時間内にアンケート記入の時間を設けても良かったと感じている。
- 委員：(2)について、募集定員20名は保育室の定員で設定したのだと思うが、受講者のうちどれくらいの方が保育を希望したのか。
- 事務局：殆どの方が希望された。
- 委員：保育の定員は20名としても、講座を行う部屋にはまだ人数の余裕があると思うので、保育を希望しない方の定員をもう少し増やしてはどうか。また、タイトルに「完璧」とついているが、子育てに完璧はなく、求めるものも人それぞれ違うため、講座のネーミングを決める際は考慮していただきたい。
- 委員：(3)について、一番の問題は参加者が少なかったことである。対象を絞りきれず、焦点が広がりすぎてしまったことが大きな原因と考えており、低学年と高学年で講座の内容もそれぞれ分けたほうが良いのではないかと感じた。
- 事務局：受講率については回を追う度に減少していったわけではなく、毎回同じくらいの人数の出席率だったことから、それぞれ関心のあるテーマで参加を決めているような印象を受けた。全ての回の参加者だけでなく、1回のみ参加者を受け入れる体制も検討する必要があると考えている。
- 委員：市内の小学校にチラシを配布できると良い。
- 事務局：広報とチラシだけでは集客が見込めなかったため、近隣の小学校には少し遅れて配布した。早い段階で配布すべきだったと感じている。
- 会長：1回からの参加も受入ができれば、より多くの人に来ていただけたと思うが、できれば全6回参加していただきたいという思いもあるので、難しい問題である。
- 委員：申込時に全回参加可能か聞いているのか。
- 事務局：全回参加が前提で広報をしていたため、今回は聞いていない。特定の回のみ希望する方は申込をされなかったと考えられるので、募集方法については検討していきたい。

(4) クリスマスコンサート「冬の夜の物語～オペラアリアとクリスマスソングのタベ～」

- 事務局：2部構成で行い、前半はクリスマスソングメドレー、後半はオペラの名曲などを随所にちりばめたオリジナルストーリーを鑑賞し、最後はステージと観客が一体となって「きよしこの夜」を合唱した。問題点としては、申込をされたものの当日来場できなかった方が多くいらっしゃったため、何らかの根本的対策をとる必要がある。評価シートの「分析・課題」で、「有料化を検討していく」と記述したが、公民館での事業の特性や、当日の事務作業の繁雑さを考えると、課題は多いと承知している。事前にいただいたご意見のとおり、来場できなくなった際は連絡をいただくよう申込時に案内する等、次回に向けて検討していきたい。

(意見・質問)

- 委員：評価シートの「参加者の声」を見ると、当日プロジェクターのトラブルがあつたのか。
- 事務局：トラブルというほどでもないが、イタリア詞のオペラの訳詞をプロジェクターで映した際、リ

ハーサルは行ったものの、画面が少しずれてしまった。

(5) 市民企画講座「ロコモ体操～百まで歩ける足腰づくり～」

事務局：講座の満足度・理解度は高く、終了後は受講者によるサークル化に繋がった。一方で、受付開始後わずか40分で定員に達し、その後も問い合わせの電話が殺到した。評価シートの「受益者の公平性」の評価をCとしたが、広報掲載記事を早く目にした方に受講者が偏ってしまったものの、特定の方に偏っていたわけではないので、評価をBに改めたい。

事務局：広報の件はどちらかというと「情報提供の適切性」にあたるため、「受益者の公平性」についてはBに訂正させていただきたい。

委員：受講者に偏りがあるというのはどのような偏りか。

事務局：「受益者の公平性」については特定の人に偏りがあつたかどうかを評価するための項目であり、今回の広報を見た時間の差については特定の人に偏りがあつたとはいえないため、「情報提供の適切性」の評価を見直すこととしたい。

委員：先着順としている以上、広報を見た時間の差は仕方ないのではないか。「公平性」という点で徹底するのであれば、申込開始日を広報掲載日の翌日にしてはどうか。

事務局：地域により、広報が届く時間にタイムラグがある。そのため、例えば受付時間を広報掲載日の午前中にしてしまうと、その時点で広報がまだ届いていない地域もあるという意味では公平性の問題も出てくる。受付時間については検討する必要がある。

委員：評価シートの「事業プロセス」欄の評価の理由に、「回を追うごとに受講者が減少してしまった」とあるが、日頃の運動週間が少なく厳しい内容だと感じたということは、3月に実施する健康講座を同様のプログラムにしてしまうと、同じ現象が起きてしまうのではないか。内容を見ると「真向法」とあるが、これは非常に厳しい運動法で、ロコモ体操のつもりで申込をした受講者は少しハードな内容になるのではないか。

事務局：健康講座については内容の変更は難しいが、講師の方にはお伝えする。市民企画講座終了後のアンケートに「ロコモ体操・真向法を知っていましたか」という設問に対し、殆どの方が「知らない」という回答だったことから、ロコモ体操というワードを見て申し込まれた方は少ないと考えている。また、受講者の年齢層について事前にご質問いただいていたが、9割が女性で、平均年齢が72歳であった。年齢が高くなるにつれハードな内容にはなってしまうと思うが、年齢を制限することも難しい。健康講座の広報では表現を工夫し、「軽めの柔軟体操や筋トレができる方」とした。

<報告事項>

1、事業評価の最終報告

事務局：報告1～3まで、資料のとおり報告する。

(2) センター長報告

障がい者青年学級成果発表会を行う。2月22日にひかり学級、2月28日に土曜学級、3月1日に公民館学級の成果発表をそれぞれ行うので、是非参加いただきたい。

生涯学習センターへテレビ取材が2件あった。1件はすでにテレビ東京で放映されており、もう1件はCSテレビ朝日で、放映日は未定である、ホームページにも取材についての記述を載せている。これをきっかけに、生涯学習センターのPRを更に図っていきたい。

平成27年第1回議会定例会が、2月26日から始まる。

1月18日に行われた全国駅伝大会に、町田市の中学生でエントリーされた3名のうち2名が出場し、3位入賞した。

(3) 東京都公民館連絡協議会について

委員：東京都公民館連絡協議会委員部会第3回研修会が1月31日の午前10時から、福生市民会館で行われる。テーマは「公民館の活性化～若者と地域の居場所づくり～」で、公民館と若者の

関係をいかに整えていくかを検討していく。講師として、国立市社会教育主事の井口啓太郎氏に、「自立に課題を抱える若者の社会参加支援事業」について、国立市の事例報告をしていただき、その後駒澤大学教授の萩原健次郎氏に「地域の居場所づくりと若者の社会参加—公民館の可能性—」というテーマで、1、「公民館を拠点とする地域の居場所づくりに、若者が関わる意味は何か」、2、「若者にとって社会参加・参画の足場となり、地域の居場所となりうるために、公民館はどのような役割が期待されるか」について講演いただく。参考になる点が非常に多いので、是非ご参加いただきたい。

<その他>

なし。